

3月の銅マーケットレポート及び4月の見通し (3)

橋本アルミ(株) 橋本健一郎



【伸銅品生産】

伸銅品生産、前年比+0.3%の6万7915t。5カ月連続増加。

内需	5万6133t +0.3%	5カ月連続プラス
輸出	1万1782t +0.5%	6カ月連続プラス
銅条	2万2219t +1.2%	22カ月連続プラス
黄銅棒	1万5736t -3.3%	2か月ぶりマイナス

【電線00】

前年比+0.8%の5万5800t。うち国内+0.5%輸出が+15.8%、通信-12.4%、電力+1.6%、電気機械-0.2%、自動車+13.9%、建設電販-1.2%、その他内需-4.6%。

【輸出】

電気銅輸出が-10.1%の3万9439t。
銅スクラップは-48.1%の1万3484t。

【輸入】電気銅が-24.9%の898t。

スクラップは+31.4%の10315t。

【見通し】

自動車は生産が-0.1%。

国内販売台数が前年比-4.9%。

生産が2カ月連続マイナス、販売が5カ月連続マイナス。

微減ではあるが生産が2カ月連続マイナス。生産販売ともマイナスが今後も続くか、注意が必要。

住宅着工の動向については、前年同月比で-2.6%と8カ月連続マイナス。

下げ幅が縮小するも下落傾向かどうか今後の動向に注目。

伸銅品は、5カ月連続増加。前年比+0.3%。

需要の多い銅条22カ月連続プラス黄銅棒は2か月ぶりマイナス、輸出6カ月連続プラス。

住宅、車の減少が続く中、伸銅品生産も上げ幅を縮小しており今後の動向に注視。

電線は、前年比+0.8%の5万5800t。

輸出が、+15.8%。

需要の多いのが自動車+13.9%。

そして、建設電販は-1.2%。

ついに建設電販がマイナスに！

銅輸出は、米中の貿易摩擦懸念や中国の環境規制からスクラップ、地金共に減少。

銅輸入は、価格高止まり感から地金は減少、スクラップは円高による割安感から増加。

【スクラップ需給予想】

流通在庫は、建値が月初2万円上昇した事から塩漬け玉が出てくる可能性が高いのではないかと。

需要面に関しては足元の生産状況は足踏み状態ではあるが新年度入りから伸銅品生産が回復傾向にある。

ただ、メーカーが続き人手不足問題から地金を優先に使用していることから品費の低いスクラップに関しては購買意欲は薄く均衡状態になるのではないかと。

【価格・為替予想】

今月は米中貿易摩擦の動向や朝鮮半島の地政学リスク問題に左右される。

米中貿易摩擦に関しては、トランプ大統領の交渉術から考えれば、何かしらの取引が行われることは間違いない。

中国もそれに対抗、及び対応する姿勢を見せていることから、一喜一憂するものの結果的には落ち着くのではないかと。

朝鮮半島問題に関しては北朝鮮最高指導者が南側の公演を初めて観覧するなど異例の対応を見せているものの歴史的に裏切られた経緯もあり早急に解決するかどうかは未知数。

ただ今月いきなり手のひらを返す可能性は低いのではないかと。

それらを踏まえた4月の銅価格は、米中貿易摩擦が起こらず交渉の範囲内であり、北朝鮮関連が大きな問題を起きなかった場合、先月高値の7000ドルを予測。

いずれかの場合は6800ドル。

下値はいずれの条件も達成できなかった場合先月安値の6600ドル。

為替は、上記の材料から、ドル円値は104円~107円(TTM)台を予測。

銅建値に関しては730-800円程度と予測している。

鉛屑・半田屑

雨滝商事株式会社

広陵リサイクルセンター

代表取締役 雨滝 卓

奈良県葛城郡広陵町大字三吉 27-1

TEL/FAX (0745)60-1613 携帯 090-2115-4918

高価買取ります